

令和 8 年 8 月 3 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

愛媛県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
愛媛県立松山東高等学校	愛媛県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
愛媛県立松山東高等学校	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/tokubetunokyoiukatei

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
愛媛県立松山東高等学校	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/file/11030	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/file/11031

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

合格者説明会や、新入生オリエンテーション、類型、科目選択説明会（新2年生対象）において、特別の教育課程による学校設定教科・科目を活用した課題研究への取組について説明している。また、中間発表会や研究成果発表会を実施し、生徒の取組状況についての情報発信を行っている。

4. 実施の効果及び課題

（1）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、平成26年度から平成30年度までの「スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）事業」及び、令和元年度から令和3年度までの「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の二つの文部科学省研究指定事業で蓄積した学びのスキルや地域との連携を生かして、グローバルな視点を持って地域課題の解決に貢献できるグローバル人材の育成を目指すものである。

調査研究活動の中で、近隣小学校への出前授業や出身中学校でフィールドワークを行い、後輩とのディスカッションに意欲的に取り組むなど、地域貢献意識や協働実践力の向上が見られた。また、学びを他者に伝える中で、コミュニケーション能力、思考力、表現力が実践的に深化しており、目指すグローバル人材育成が着実に進んでいる。

（2）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

1年生の「明教探究基礎」では、講演や企業フィールドワークを通じて地域課題への理解を深めた上で、2学期からは課題設定を行い、具体的な解決策に向けて調査研究を行うなど、座学だけでなく、現実の地域社会に根ざした課題解決能力の基礎が養われている。

2年生の「GL明教探究」では、多様な地域人材や専門家を講師として、地域創生系、人文国際系、生命・健康系、理工学・ICT系の4分野12講座を開設している。生徒が自らの興味・関心、進路希望に応じて講座を選択し、専門的な指導・助言を受けながら探究活動を進めている。より専門的な知見や多様な視点に触れる機会が増え、学びが深まるとともに、地域課題解決能力や専門的探究心の高まりを見せた。

一方で、GLコース以外の生徒への波及効果や、探究活動の成果の地域社会に対する普及・還元についての工夫が、今後の課題である。

5. 課題の改善のための取組の方向性

GLコースの探究活動の校内発表会拡充や他科目での活用推進を通し、全校生徒に探究の面白さを広げるとともに、4で示したような、地域との協働性を高めることにより、学校全体としてのグローバル人材育成の充実に努めたい。